

興味をもって挑戦する秋

副校長 上野 哲

秋の風が心地よく、学校を囲む木々も少しずつ色づいてきました。澄んだ空気のもと、子どもたちはそれぞれの学習活動に元気いっぱい取り組み、一人一人が自分らしいペースで学び、成長を重ねています。

小学部6年生は、10日に修学旅行として、日帰りで多摩市にある民間企業の施設内にあるプラネタリウムを訪れ、星や星座、宇宙の神秘を鑑賞・体験する活動を行いました。中学部1・2年生は、23日～24日と移動教室に出かけました。神奈川県藤野を訪れ、自然豊かな環境の中でサンドブラスト体験やおかりなの絵付け体験を行ったり、宿泊施設から程近くにある山梨県立リニア見学センターを訪れ、リニアモーターカーの見学をしたりしました。小学部、中学部共に日頃から学習している公共の場でのマナーや安全な行動について、十分に成果が見られ、有意義な活動となりました。高等部においては、10月～11月は、2・3年生を中心に現場実習、校内実習など、「進路」に関わる学習が盛んに行われています。実習を終えた生徒は、その成果と課題を振り返りながら、自分に合った働き方や将来の生活を考える時間を大切にしています。働く喜びや責任を感じ、「次はこうしてみたい」と新たな目標を見付ける生徒も増えてきました。

さて、今月、日本の研究者・北川進さんがノーベル化学賞を受賞したという嬉しいニュースがありました。北川さんは、目には見えないほど小さな「穴」をもつ新しい物質を発見し、環境問題の解決にもつながる研究を続けてこられた方です。記者会見での「興味をもって挑戦する姿勢が必要」という言葉が印象的でした。北川さんが語るように、学びや発見の出発点は「おもしろそう」「やってみたい」という素直な気持ちなのだと思えます。

子どもたちの毎日の生活や学びの中にも、同じような瞬間があります。新しい道具を使ってみたり、友達と一緒に工夫して物事に取り組んだりする中で、「どうしてこうなるの?」「もっとやってみたい!」という声が聞こえてきます。その小さな興味や疑問を大切に、失敗しても諦めずにもう一度挑戦できる環境をつくっていくことが、私たち教職員の大切な役割だと感じます。

秋は「実りの季節」とも言われますが、子どもたちの成長もまさに今、実を結び始めています。一人一人の「できた」「わかった」という喜びを積み重ねながら、自分なりの目標に向かって少しずつ前進しています。11月に入ると学習発表会に向けた学習も本格化します。これからも、北川さんの言葉にあるように、「興味をもって挑戦する姿勢」を子どもたちと共に育てていけたらと思います。

季節の移り変わり、体調を崩しやすい時期でもあります。どうぞ健康に留意されながら、お子さんの頑張りを温かく見守っていただければ幸いです。

「防災力の向上と自助・共助」～本校の防災・防犯への取組～ 生活指導担当主幹教諭 福田 晃

本校では、「全ての児童・生徒の安全を守る」ため、また、「自助・共助」に必要な対応力を身に付けられるよう、全校で防災・防犯への取組を継続的に行っています。今回はその一例を紹介します。

◇避難訓練…全校対象で学期中は毎月実施 *地震、火災、土砂災害、不審者侵入等を想定

「お・か・し・も」(押さない・かけない・しゃべらない・戻らない)を守り、落ち着いて体育館や玄関ホール、グラウンド等に避難しています。また、訓練の様子は、市、警察署、消防署、近隣施設、地域の方等に見ていただき、それぞれの視点からの指導・助言をいただいています。

◇高1 防災学習の日・引き渡し訓練

昨年度まで実施の「宿泊防災訓練」に変わり、新たに実施。防災に関する学習を行うほか、生徒が教員とともに避難所設営用の物品の移動や設営、保護者への引き渡し訓練を行います。

この他、年度当初や夏季休業中には、全教職員を対象に、災害時の連絡系統や避難経路・場所の確認、「さすまた」など防犯用品の効果的な使用方法を確認する「自衛防災・防犯訓練」、防災の専門家を講師に、講演と演習を組み合わせた「防災教育講演会」なども実施し、全教職員が防災・防犯に対応する力を高めています。